

## 年頭所感（「週刊ケイザイ防長」）

日本銀行下関支店長 蒲地 久司

新年明けましておめでとうございます。謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

旧年中は日本銀行下関支店の業務に格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年の山口県経済は、全国同様、一昨年に引き続き感染症の厳しい影響を受けました。

個人消費の面では、年初・夏場に感染者数が急増し、秋口には飲食店への時短要請措置がとられるなど、対面型サービスを中心に厳しい環境が続きました。企業は、政策支援も活用し雇用の維持を図りつつ、アフターコロナに備えた仕事の見直しにも取り組んできました。年後半には、行政・医療関係者・企業の尽力・協力もあり全国トップのスピードでワクチン接種が進み、感染症のリスクを大きく低下させました。年末にかけ、各種支援策の効果も相俟って人出が回復してきており、持ち直しの動きがみられています。

ウェイトの高い製造業では、化学、自動車関連など、高い品質・競争力を有しており、世界的な需要回復を背景とした生産・輸出の持ち直しが続きました。年後半は、原材料価格の高騰や海外での感染症再拡大に伴う部品供給制約の影響も見られましたが、高い収益と高水準の投資を実現しています。

山口県経済は、こうした産業構造の強さに加え、各種の政策効果やチームワークの良さも相俟って、現状、全国と比べ回復の力強さが際立っています。ただ、原材料価格の高騰の影響や、海外経由を含む感染症の影響には不確実性が残り、企業の資金繰り面を含め引き続き注意を要します。また、中長期的には、人口減少、人手不足、デジタル化といった従来からの課題に加え、気候変動対応という大きなチャレンジも必要です。

本年も、県を挙げたチームワーク、企業の高い先見性や技術力といった強みを生かし、山口県経済が更に発展し、皆様にとって実り多い1年となることを心より祈っております。